

雲南市行財政改革審議会（令和４年度 第２回）会議録要旨

開催日時 令和４年１１月１０日（木） ９：３０～１２：００

開催場所 雲南市役所３階 ３０１会議室

会議の出席者

(1) 委員（１１名）

関耕平委員長、菅原純子副委員長、朝山猛委員、石飛啓委員、遠藤勇二委員、岸本寛子委員、小林和彦委員、野々村一巳委員、松林重雄委員、源之美委員、福留正子委員
（欠席者）有田昭一郎委員、小田草茂委員、杉原律雄委員、マラー詩乃委員、

(2) 事務局（３名）

嘉本総務部長、奥井行財政改革推進室長、高橋ＧＬ

議題

(1) 公共施設等総合管理計画実施方針（第２次）について

①実施方針（第２次）に関する意見・アンケート（要旨） 資料No.1

②旧学校等施設について 資料No.2

○説明概要：

- ・委員全員に実施したアンケートをまとめ、その要旨（資料No.1）を説明し、全体の情報共有を図った。
- ・資料No.2により、旧学校等施設等に関連する基本方針及び設置条例の説明を行った。また、施設の現状、地域との協議の長期化、施設の老朽化等の課題も説明し、意見を伺った。

○主な意見等

（旧学校等施設）

- ・少子化が廃校になった原因でもあり、また、高齢化やコロナ禍によって昔ほど校庭や体育館を活発に利用しなくなっている。
- ・地域との協議も長期化し、期間が１０年と言えば世代も変わってきている。
- ・少子高齢化により利用の少ない施設や災害時に避難するためとは言え、その間の維持管理費が財政面からも負担となり極めて困難ではないか。すべてを残していくことは難しいので、廃止すべきものは廃止していかなければならない。
- ・スポーツの振興の面や若い世代に体育館などの施設を残したい気持ちはあるが、現実的には難しい。
- ・旧学校等施設の活用を考えると、木造や平屋であれば、既に交流センターの様に転用や他の活用もし易いが、２階建て以上や鉄筋コンクリート造りでは活用しにくい。
- ・規模の大きい建物は、地域自主組織が譲渡を受けたり活用したりするのが難しいのではないか。
- ・老朽化している体育館は、施設の機能面でも利用ニーズが少なくなっている。地域の残したい気持ちも分かるが新しく建つとも思っていないので難しい問題である。
- ・旧幼稚園を譲渡や貸付対象にPRしていったらどうか。

- ・「旧学校」を「校舎」、「体育館」、「校庭」と分けて、それぞれの地域のニーズや用途をしっかりと考えていく必要がある。
- ・まずは地域自主組織の活用がひとつのモデルだが、地域との対話を前提としながらも、施設の方針を加速化していかなければいけない。
- ・子どもが少なくなり若い人も帰って来なくなつての廃校であり、施設の活用も将来の地域人口の推移や年齢層も考慮し、現実的に高齢化していく地域が規模の大きい施設を活用していくことや管理していくことも難しくなる。その先の次世代のことも考えていかなければならない。
- ・少子高齢化社会を見据え、施設を考えていくことも大事ではないか。
- ・今のうちにある程度の期間を区切って施設を考えていかないといけない。住民の話し合いの結果を待ちましようという段階ではない。議論の加速化も必要。
- ・地域に配慮するあまり協議が長期化していると感じている。いつまでも地域との協議が長引いてよいとは思っておらず、どこかで線を引いて（期限を切って）結論付けなければならない。
- ・施設方針の協議が長期化しているのは、地域の意見を尊重し、重視しているから進まないのか、しっかり対話をして膝詰めで将来を見据えた議論をしてこなかったから一旦止まっているのか。しっかり議論し合意形成すれば、地域の意識としても必ずしも残したいとはならないのではないか。
- ・地域、民間へと段階を踏んでいくとスピード感がなくなるのでオープンにしていく中で必要に応じて地域の意見聴取もしていく視点も必要ではないか。
- ・その地域の将来像を地域が描く中で、その施設をどうするのか考える必要があるのではないか。
- ・活用方法も見いだせない状況が長期化することで、その期間に管理費など市の財政負担や地元負担がかかることについても理解していただく必要もあるため、説明していくことが必要。（情報提供と情報共有）
- ・話し合いのテーマ性をもって、地域を引き継ぐ若い世代の男女の考えも考慮し、地元のリスクもあれば明確にしておく必要があるのではないか。

～民間活力の活用の視点も含めて～

- ・市から譲渡を受ける民間企業もなかなかいないと思うが、貸付という形であればニーズはあるかもしれない。
- ・企業やNPO法人、社会的な取り組みをしている団体などに向けて、広く用途を限らずにサウンディング（業者ヒアリング）をしてみてニーズを募ってもいいのではないか。

（脱炭素社会実現）

- ・目的を失った既存施設の活用方法（転用先）に脱炭素社会実現のための活用方法など検討されてはどうか。
- ・脱炭素の観点からすれば、条件不利地にある施設でも活用の余地はあるのではないか。

（その他）

- ・市の恵まれた資源を活用した、他にはないものを発想していく中で施設の活用方法の検討や将来的には雇用の場にも繋がるのではないか。
- ・市も有効に活用できる施設には、しっかりとした方針をもって活用の在り方を検討してほしい。
- ・観光という広がりのある視点で歴史ある市が誇れるような文化財などをもう少し活性的に活用

できないか。

- ・テーマ性によっては、市の部署横断的な繋がりをもって広い知見で効率的に施設の活用を検討していけばよいと思う。
- ・老朽化した施設の新設を検討する前に既存施設の改修等で代替できないかを検討するべきではないか。
- ・施設を総合的に管理し、部局横断的に調整する役割を持つ部署が重要で、活用方法をしっかりと議論できるように機能強化することが施設の適正化に繋がる。

以上